

科目名		原価計算論Ⅱ (Cost Accounting Ⅱ)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第3学年	経営情報学科	履修	1単位	—	講義	後期 90分/	30時間		
担当教員		【常勤】田川 晋也							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	この講義では、製造業で用いられる簿記である工業簿記と製品原価の計算方法について学ぶ。また、原価計算で算定された原価情報を会社経営の意思決定に利用する方法についても学ぶ。原価計算論Ⅱでは、主に原価情報の利用の仕方について学ぶ。								
学習・教育目標	(C)	JABEE基準1(2)							
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	簿記概論Ⅰ・Ⅱ、原価計算論Ⅰ								
教科書	「原価計算」醍醐聰 著 (東京法令出版)								
補助教材等	プリント(演習問題)								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
	総合評価割合	40	40		20				100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		◎					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能 【論理的思考力】	○	○		○					
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
1・2年生の頃に学習した商業簿記、前期に学習した項目について復習しておくこと。授業の時は、必ず電卓を持参すること。									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 総合原価計算 ・工程別総合原価計算	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・2つの工程の計算ができる。 ・仕損が発生した場合の計算ができる。 ・副産物の処理を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4	2 標準原価計算 ・原価標準の設定 ・原価差異の計算と分析	・標準原価計算の手続きの流れを説明できる。 ・原価標準の設定の方法を理解できる。 ・標準原価の計算を理解できる。 ・原価差異の計算し、分析することができる。 ・価格差異と数量差異の分析ができる。 ・作業時間差異と賃率差異の分析ができる。 ・予算差異、能率差異、操業度差異の分析ができる。 ・標準原価の記帳ができる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
5			
6			
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 3 直接原価計算	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・利益計画と直接原価計算の意味を理解できる。 ・直接原価計算の手続きを理解できる。 ・損益分岐点分析を理解できる。 ・固変分解を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11			
12	4 本社工場会計 5 製造業の決算	・本社工場間の仕訳を理解できる。 ・製造原価報告書について理解できる。 ・会計期末における原価差異の処理を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
13			
14			
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総授業時間数			30時間